

新基地建設反対名護共同センターニュース

安里 200 回目のスタンディングに 50 人余参加



4年前から始めた那覇市内の安里・大道・松川島ぐるみの会のスタンディングが20日朝、安里交差点で節目の200回目が行われました。

この日、地域内外の住民や日蓮宗法華経寺の住職さんなど50人を超える人々が参加しました。

参加者は、「辺野古の予算をコロナ対策へ」、「美ら海を利権で汚すな!」など思い思いのパネルを掲げて、「ドライバーや通行人に明るく訴えました。バスの中から手を振ったり、「ご苦労さん」と声をかけるドライバーもいました。終了後、打ち合わせで渡久地修県議が「このような島ぐるみの不屈の活動が日本と世界の世論を動かしています。引き続き頑張りましょう」と挨拶。故翁長雄志前知事の妻・樹子さんや那覇市議も参加しました。

島ぐるみの不屈の活動が世論を動かしている



↑法華経寺の住職さんはじめ信徒の皆さん10数人も「いのちに合掌」と書いたのぼりなど掲げて参加しました。他の参加者もそれぞれ思い思いのパネルをかざってアピールしました。

全国・沖縄県内から意見書提出を！ 辺野古・変更申請書の問題点を学習

へり基地反対協は20日、名護市内で北上田毅氏（写真）を講師に防衛局が出した設計変更申請書への意見書提出運動の学習会を開催しました。北上田氏は、パワーポイントを駆使し辺野古新基地の設計変更承認申請の問題点を①総工費・工期の問題点、②軟弱地盤問題、③地盤沈下問題、④耐震設計の問題、⑤環境汚染問題、⑥土砂の調達問題など多角的に明らかにし、防衛局の変更計画は破たんが明らかだと指摘しました。この上で北上田氏は、8月上旬から始まる広告・縦覧期間



の3週間以内に多くの方が「意見書」を提出することを呼びかけました。なお、意見書は「利害関係者だと思ふ」人なら、県内外のだれでも提出できます。意見書の様式や参考例などは「オール沖縄会議」のホームページに掲載されていますのでご覧ください。

私たちに力を届けてくれてありがとうございます。

まもなく300号迎える
本ニュースへのメッセージ
その④

●新基地建設反対名護共同センターニュース、もうすぐ300号記念おめでとうございます。

沖縄米軍基地での米兵の新型コロナウイルス感染症の拡大、とても恐怖を感じています。日本全国に米軍基地がありますので、コロナ感染拡大が拡大することは現実味を帯びてきました。

京都府丹後にも米軍Xバンドレーダ基地があり、軍人・軍属が駐留しています。自由奔放に車を運転して、出歩いています。沖縄米軍基地の問題で済まされません。手も足も出せない日本政府が恥ずかしいです。これからも、サンサン革新懇は沖縄に寄り添った連帯を取り組んでいきます。

(京都) サンサン革新懇会員一同
事務局長 中組修

●センターニュース300号、おめでとうございます。激しい闘いのさなか、いつもセンターニュースで私たちに力を届けていただき、ありがとうございます。

5年前、辺野古の基地建設が大きく報道される中、何とかしなくてはいけない、でもどうしていいかわからない、という時にセンターニュースを知り、プリントとメールでの拡散活動の中で「辺野古・高江の会」としてできて、現在でも月例の会合ではニュースを配って話し合っています。

上映会や講演会では共同センター・スタッフにお世話になりました。
コロナ禍でも辺野古では工事が強行され、反対運動も進められている以上、私たちもできることをと、分散集会や街頭宣伝を計画しています。

現地の皆さんのご健康を祈ります。

(東京) 辺野古・高江の会として

古波津直也